

食虫植物ナガバノイシモチソウ

23日、豊橋で観察会

県天然記念物の食虫植物 藤町の幸公園で開かれる。「ナガバノイシモチソウ」 赤い花のナガバノイシモチの観察会が二十三日、自生 地として知られる豊橋市佐 豊橋市と豊明市だ けで確認されている日本固

有種。茎のように細長い葉に生えた腺毛から粘液を分泌し、昆虫を捕らえて養分を吸収する。 直径約一センチの花は通常白

く、赤い花のタイプは愛知教育大の研究グループが日本固有種であることを突き止め、二〇一三年に発表した。豊橋市の自生地では例年、六月下旬～十月下旬の午前中に開花する。

鑑賞会は普段は入れない幸公園内の二千五百平方メートルの保護区域でナガバノイシモチソウを間近で鑑賞できる。今年は約一万二千株が生え、鑑賞会当日は四千ほどの花が咲きそうという。

市文化財センター学芸員の贅元洋さん(六三)は「今年は七月に雨の日が多く、八月は晴天が続いたためか、例年よりもかなり株数が多い。ぜひ見に来て」と話している。

鑑賞会は市文化財センター主催で、午前九時半から。先着三十人で電話予約が必要。市文化財センター 0532(56)6060 (鈴木弘人)



幸公園に自生しているナガバノイシモチソウ。白っぽい植物がナガバノイシモチソウ。いずれも豊橋市佐藤町で